

■ 日本防災士会の活動

日本防災士会は、防災士となった有志による、防災士の活動組織であり、防災士に対する新しい知識・情報の提供、防災士の相互協力、組織としての取り組みができるよう各地での支部作りを通して、防災士のネットワーク化を図り、地元自治体や防災関連団体との連携を強めています。

日本防災士会の支部の活動として、地域自治体と災害防災協定を結び、各種防災啓発イベントに講師等を派遣したり、消防機関との合同訓練、機関紙の発行、防災スキルに資する教材配布等を行うなどの活動を進めています。

■ 日本防災士会会員の活動理念

第1

日本防災士会会員は、地域防災力の向上に努め、防災協働社会の実現に寄与することを活動の基本理念とする。

■ 日本防災士会会員の活動理念

第2

会員は、地域の防災活動に参画し、災害の事前対策、応急対策（復旧・復興活動を含む）等、地域の防災活動計画の策定・実施に関し、指導的役割を果たすものとする。そのために、次の事項に積極的に取り組むものとする。

1. 会員相互のネットワークを構築し、協力関係を確立すること。
2. 地域防災活動のリーダーにふさわしい防災知識・技能の研さんに努めること。
3. 自治体との緊密な連携を図ること。

地区防災計画

（ 日本防災士会では地区防災計画作成を最重要課題として取り組んでいます。多くの地区でこの計画に取り組んでいただきたたく存じます。 ）

特定非営利活動法人日本防災士会





●地区防災計画は

行政の「地域防災計画」とは違う

一定の地域にお住いの方が、自分たちの地域の人命、財産を守るための助け合い（共助）について、自発的な防災活動計画を策定することです。市町村内の商店街や小学校区、複合ビルなどのコミュニティレベルでの住人や企業などによる自発的な防災活動について防災計画を策定します。

防災というと自助・共助・公助といわれますが、その共助の部分を膨らませていくための制度として位置づけられています。

● 地区防災計画は義務ではない、 内発性が大事

作りたいコミュニティは作ってもいいという仕組みです。コミュニティから提案する形を取り、多様で固有の地域特性を反映していきます。自分たちがやりたいからやる「内発性」を重んじます。

● 地区防災計画は街づくりに繋がる

地域住民の命が助かるために、人間力、地域力、暮らし方を創造していく。これは「街づくり」と基本的に同じ取り組みです。



●出来ることから始める

最初から完璧なものを目指す必要はありません。

近隣の方が集まり、防災ゲームで楽しむ、街歩き（散策）をしてみることも、地区防災計画の取り組みです。行政に報告する必要もありません。

●日本防災士会本部として

「地区防災計画取り組みツール」を提供

日本防災士会では会員の皆様が「地区防災計画」に取り組むための「ツール（パワーポイント教材、被災地写真、資料、データ）」を作成しホームページにアップしています。

誰でも自由にダウンロードして利用できます。



■ HP にアップするデータ



● 講義用ppt

- ・推進指導員編
- ・地震編
- ・津波編
- ・気象災害編(洪水、河川氾濫)

● 災害別フレームワーク

- ・気象災害
(台風、豪雨、洪水、強風)
- ・地震
- ・津波
- ・土砂災害

● 災害別被災写真

- ・気象災害
(台風、豪雨、洪水、強風)
- ・地震災害

● 各種データ

- ・自治体資料
- ・行政配布資料(ハザードマップ)

● 資料集

- ・内閣府データ
- ・その他データ(防災白書)

■ 2018年 自然災害

● 大阪北部地震

2018年6月18日7:58に発生した大阪北部を震源とするM6.1の直下型地震
大阪北部で観測史上最大の震度6弱を観測

● 平成30年7月豪雨（西日本豪雨）

2018年7月上旬に発生した豪雨災害。
広島県、岡山県、愛媛県など広範囲に甚大な被害をもたらした
死者は227名、行方不明者10名となり、水害による死者100名を超えたのは
1982年の長崎豪雨以来のこと

● 平成30年猛暑

5年ぶりに40度超え、熊谷市で最高気温記録を更新する41.1℃を観測
下呂市、美濃市で41.0℃、名古屋市で40.3℃、京都市で39.8℃を観測

● 平成30年台風21号

1993年以来25年ぶりに「非常に強い」勢力で上陸。大阪湾で1961年の
第二室戸台風の時を上回る3m超の高潮を観測し、関西国際空港では滑走路が
浸水し、連絡橋にタンカーが衝突して孤立状態となった

● 北海道胆振東部地震

2018年9月6日3:08に発生したM6.7の地震
厚真町で震度7、札幌市東区や新千歳空港などで震度6弱を観測
苫東厚真火力発電所の緊急停止から発生したブラックアウトにより
全道295万戸が停電した



近年の自然災害

- 兵庫県南部地震M7,3 (阪神・淡路大震災)1995.1.17
- 三宅島の噴火、有珠山の噴火 2000年
- 新潟・福島豪雨2004.7.13,福井豪雨2004.7.18
- 浅間山の噴火(2004.9.1)
- 新潟県中越地震(2004.10.23 M6,8)
- 兵庫県豊岡市、台風による水害(2004.10)
- 長野県岡谷市豪雨災害(2006.7)
- 能登半島地震(2007.3.25 M6,9)
- 新潟県中越沖地震(2007.7.16 M6,8)
- 岩手・宮城内陸地震(2008.6.14 M7,2)
- 兵庫県佐用町水害(2009.8.9)
- 奄美大島豪雨災害(2010.10.19~21)-1日雨量691mm
- 霧島・新燃岳の噴火(2011.1.26~)
- 東北地方太平洋沖地震M9,0 (東日本大震災)2011.3.11
- 伊豆大島、台風・大雨・土砂災害(2013.10.16)-1日雨量824mm
- 広島市土砂災害(2014.8.20)-バックビルディング現象
- 御嶽山噴火(2014.9.27~) 水蒸気爆発(水蒸気噴火)
- 関東・東北豪雨災害 (2015.9.10) –線状降水帯
- 熊本地震M6.5,M7.3(2016.4.14 ~) 震度7が2回
- 岩手県岩泉町、台風・大雨・土砂災害(2016.8.30)-グループホームで死者9名
- 糸魚川市大規模火災(2016.12.22~23) - 40,000㎡焼損 144棟全半焼
- 九州北部豪雨災害 (2017.7.5~6) –梅雨前線が南下、線状降水帯
- 大阪府北部地震(2018.6.18 07:58 M6,1) 震度6弱 ブロック塀の倒壊
- 平成30年7月豪雨災害 (2018.6.28~7.8) –台風7号及び梅雨前線
- 平成30年北海道胆振東部地震(2018.9.6 M6,7 03:07) 震度7 ブラックアウト停電

●	: 地震災害
●	: 火山噴火
●	: 豪雨、土砂災害
●	: 火災

■ 自然災害による死者・行方不明者内訳

(単位：人)

年	風水害	地震・津波	火山	雪害	その他	合計
平成5年	183	234	1	9	11	438
6	8	3	0	21	7	39
7	19	6,437	4	14	8	6,482
8	21	0	0	28	35	84
9	51	0	0	16	4	71
10	80	0	0	28	1	109
11	109	0	0	29	3	141
12	19	1	0	52	6	78
13	27	2	0	59	2	90
14	20	0	0	26	2	48
15	48	2	0	12	0	62
16	240	68	0	16	3	327
17	43	1	0	98	6	148
18	87	0	0	88	2	177
19	14	16	0	5	4	39
20	22	24	0	48	7	101
21	76	1	0	35	3	115
22	31	0	0	57	1	89
23	136	22,203	0	125	2	22,466
24	52	0	0	138	0	190
25	75	0	0	92	6	173
26	112	0	63	108	0	283
27	28	0	0	49	0	77
28	45	267	0	32	0	344
29	59	0	0	77	0	136

H30年度版防災白書より



■ 地域で何をすれば いいのか？ 何が必要か？

- ① 地域のことを知る
- ② 過去の災害から学ぶ
- ③ 災害に関する知識
を増やす



■ 米国の災害対応

●カトリーナ 2005年8月 ルイジアナ州 死者1836人



●サンディ 2012年10月 ニュージャージー州 死者 199人

- 都市機能が高度に集積した大都市に壊滅的な被害
- 被害額は約8兆円（ニューヨーク州、ニュージャージー州）
- 上陸時風速：36m/s、勢力範囲：約1400km
- 高潮による浸水被害（地下鉄、道路、鉄道のトンネル）
- 公共交通機関停止、大規模停電
- ニューヨーク証券取引所2日間取引停止

発災前から実施すべき対策を予め時系列プログラム化

タイムライン



タイムラインとは？

事前防災行動計画

災害が発生することを前提として、関係者が事前にとるべき行動を「いつ」「だれが」「何をするか」に着目して時系列で整理したもの

「タイムライン」の典型例として、ニューヨーク地下鉄はハリケーン・サンディ（2012年）の上陸1日前に、乗客に事前予告したうえで地下鉄の運行を停止したことを示した。浸水被害は生じたが、最短2日で一部区間の運行が再開された。また、ニューヨーク証券取引所も上陸前に休場を決定している。ニュージャージー州では上陸の36時間前に州知事が住民に避難を呼びかけた。

■ わが国における取り組み

- アメリカのハリケーン“サンディ”の被災状況、事前取り組み状況を視察した、CEMI（環境防災総合政策研究機構）の松尾一郎副所長がNHKの求めに応じて「**タイムライン**」（事前防災行動計画）と命名。普及活動に取り組んでいる。
- 国土交通省が、水害対策の効果的な進展を目指してタイムラインの普及に努めている。

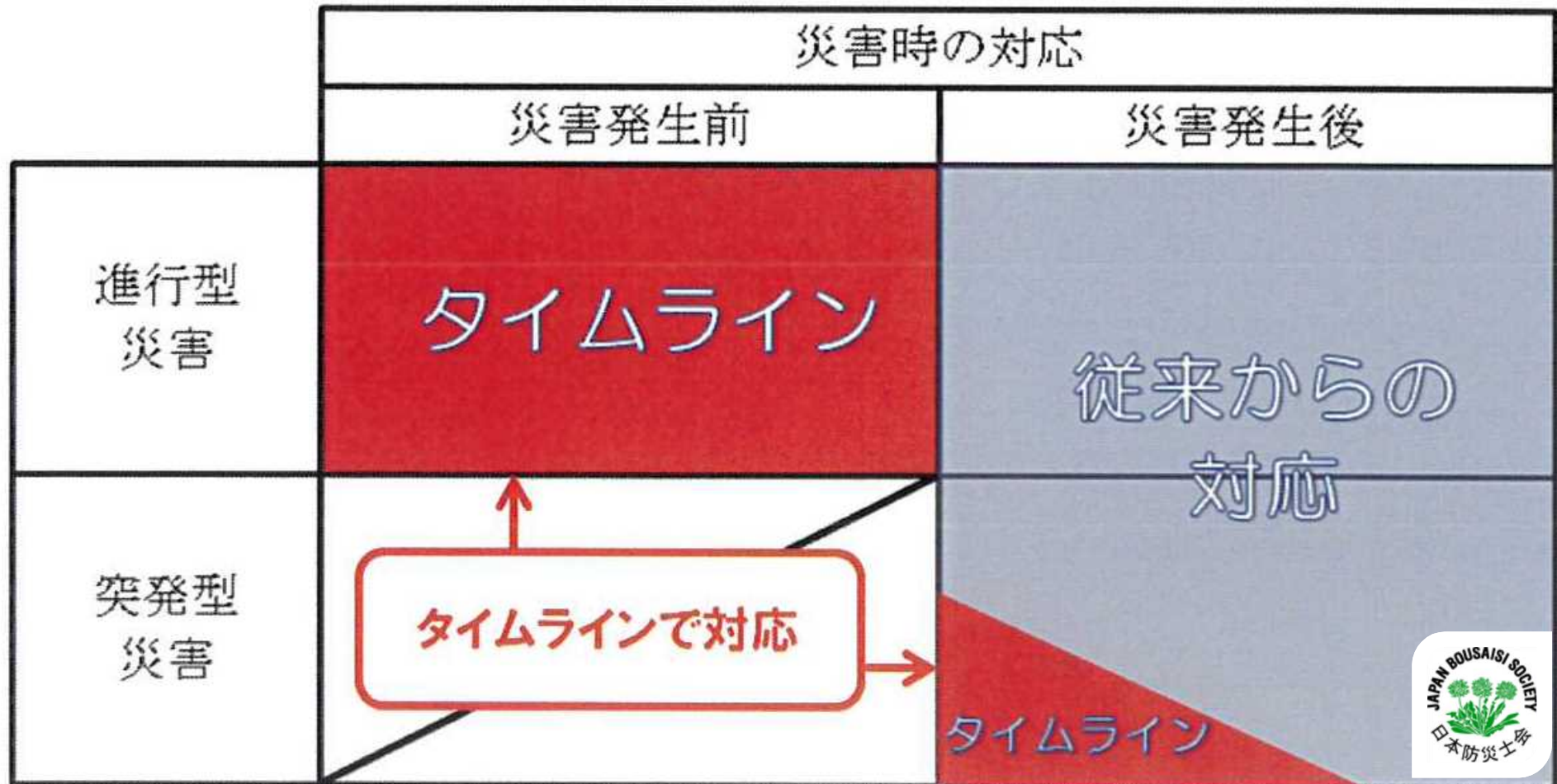
■ タイムライン・国土交通省政策チャンネル



タイムラインの定義

本指針において、タイムラインとは、災害の発生を前提に、防災関係機関が連携して災害時に発生する状況を予め想定し共有した上で、「いつ」、「誰が」、「何をするか」に着目して、防災行動とその実施主体を時系列で整理した計画をいう。

災害対応におけるタイムラインの位置づけ



災害対応のスケジュール表“タイムライン”

○タイムラインとは、災害が発生することを前提として、関係者が事前にとるべき行動を「いつ」「誰が」「何をするか」に着目して時系列で整理したもの。

		国土交通省	交通サービス	市町村	住民
台風発生	台風上陸 3日前	○台風予報 ○台風に関する記者会見	体制の 早期構築	運行停止の可能性を 早めに周知	広域避難の可能性を 早めに周知
台風上陸 の可能性		○連絡体制等の確認 ○協力機関の体制確認	○交通サービス 運行停止予告	○広域避難体制の 確認・周知	○防災用品の準備
災害発生 の危険性	台風上陸 1日前	○台風に関する記者会見 (特別警報発表の可能性) ○大雨・洪水等警報 ○はん濫警戒情報	○リエソンの派遣 ○所管施設の巡視	○運行停止手順の 確認・公表	○広域避難の開始
		○大雨・暴風・高潮等 特別警報		○広域避難勧告・指示 ○広域避難者の誘導・ 受入	早期に 広域避難を開始
台風接近	台風上陸 12時間前	○はん濫危険情報	○市町村長へ事態切迫 状況の伝達	○避難勧告・指示	台風上陸前に 避難を完了
		○はん濫発生情報	○運行停止 ○施設保全・待避終了	○支援の要請	
台風上陸	0時間前	○TEC-FORCE活動 (道路啓開等) ○被害状況の把握 ○緊急輸送路の確保	○被害状況の把握 ○施設点検 ○運行見通しの 公表	早期復旧・再開が可能 となるように運行停止	

国土交通省資料より



■ 地区防災計画をつくろう！

防災計画－計画的防災対策の整備・推進

- ・ 中央防災会議 : 防災基本計画
- ・ 指定行政機関・指定公共機関 : 防災業務計画
- ・ 都道府県・市町村防災会議 : 地域防災計画
- ・ 市町村の居住者・事業者 : 地区防災計画

内閣府「地区防災計画ガイドライン」より



■ 地区防災計画とは・・・

平成 25 年の災害対策基本法改正において、地域コミュニティにおける共助による防災活動の推進の観点から、市町村内の一定の地区の居住者及び事業者（地区居住者等）が行う自発的な防災活動に関する地区防災計画制度が新たに創設されました。

地域コミュニティ主体のボトムアップ型の計画

地区防災計画は、地区居住者等により自発的に行われる防災活動に関する計画であり、地区居住者等が活動する地域コミュニティが主体となったいわゆるボトムアップ型の計画です。また、地区居住者等による計画提案制度が採用されていることもボトムアップ型の一つの要素です。



■ 地区防災計画制度の全体像

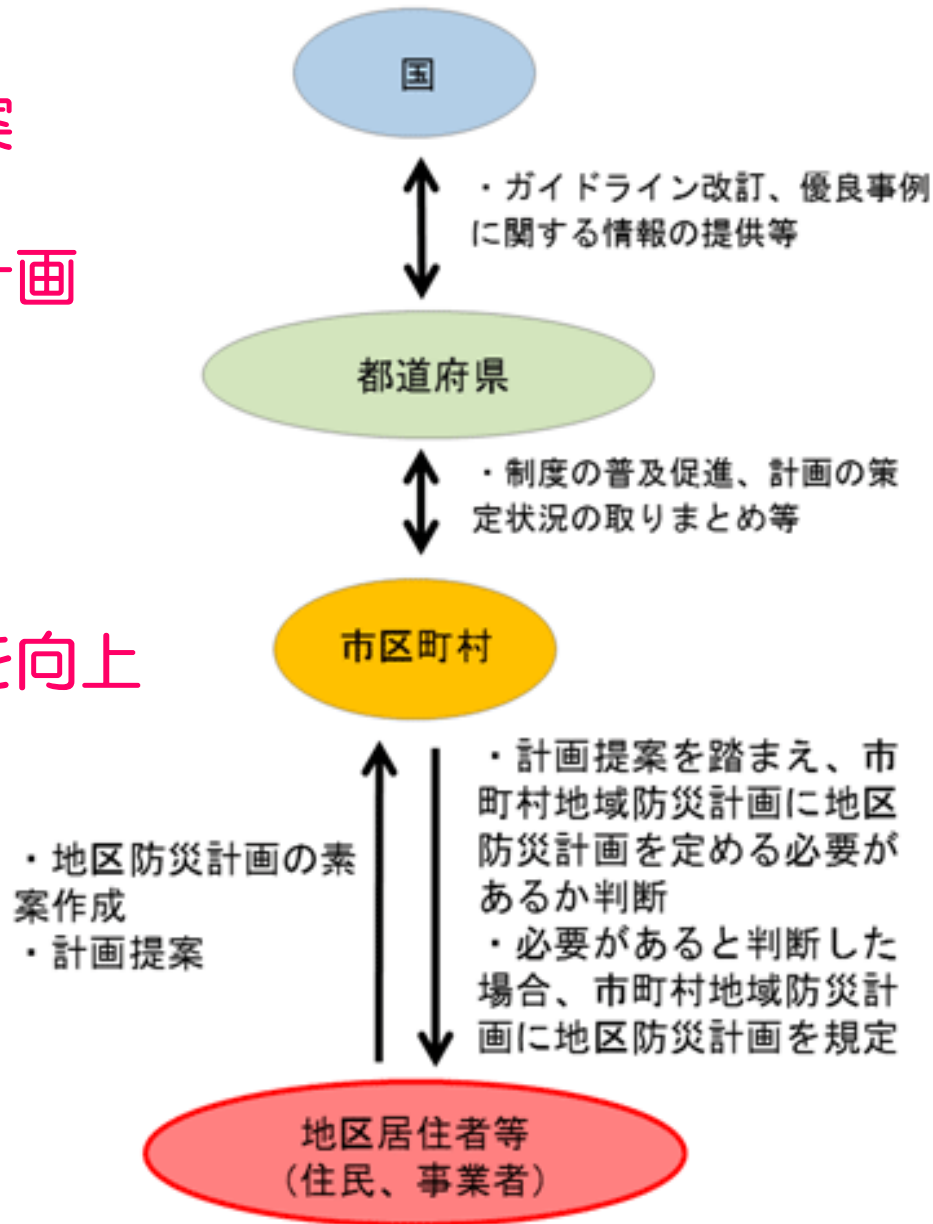
● ボトムアップ型の提案

● 地区の特性に応じた計画

- ・ 自然特性
- ・ 社会特性
- ・ 想定される災害

● 継続的に地域防災力を向上

地区住民等による
自発的な防災活動

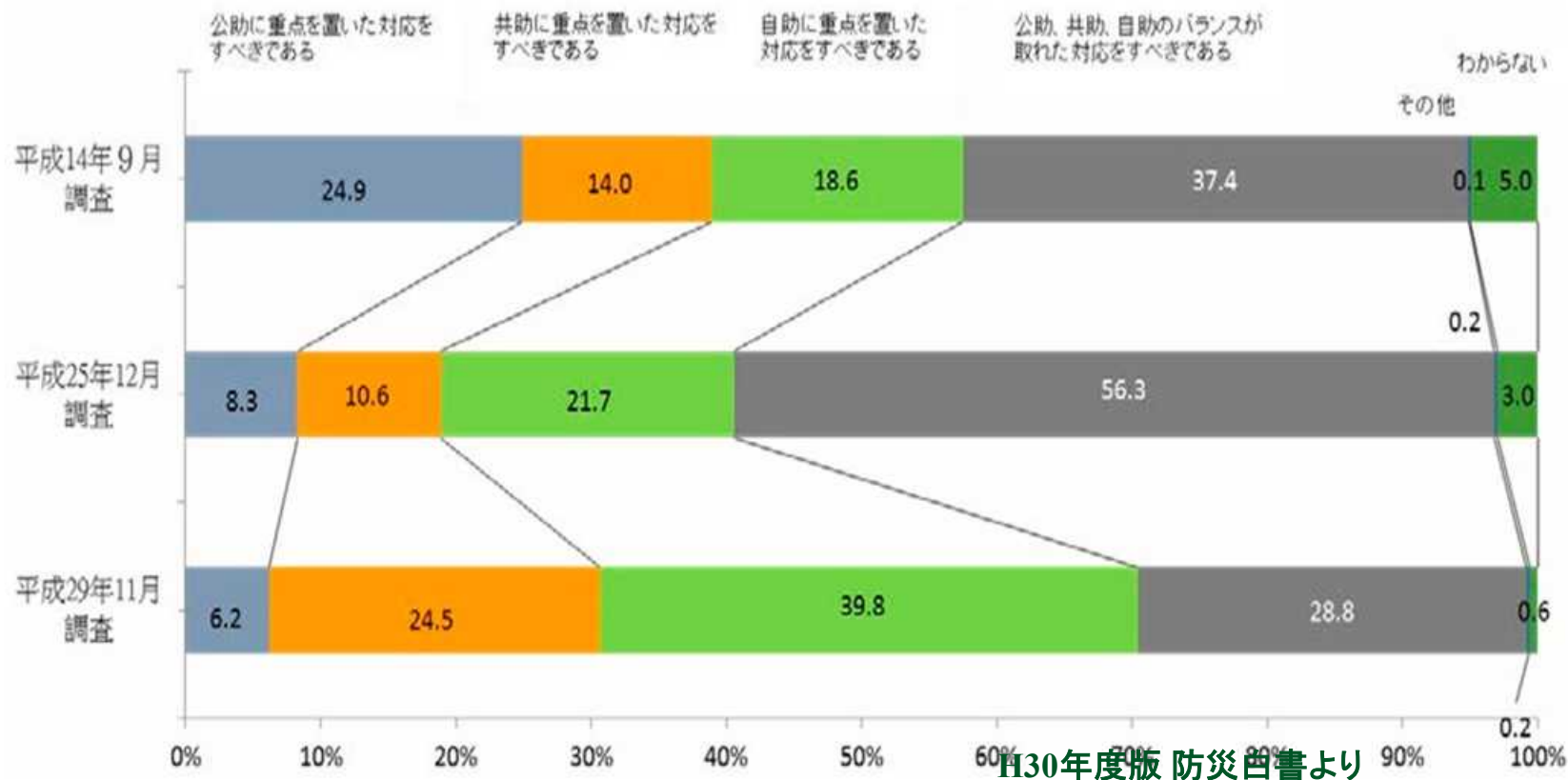


H26年度版防災白書より

出典：内閣府資料



■ 自助、共助、公助の対策に関する意識



出典：内閣府政府広報室「防災に関する世論調査」より内閣府作成

地区の特性に応じた計画

地区防災計画は、各地区の特性や想定される災害等に応じて、多様な形態をとることができるように設計されています。また、計画の作成主体、防災活動の主体、防災活動の対象である地域コミュニティ（地区）の範囲、計画の内容等は地区の特性に応じて、自由に決めることができます。

地区防災計画は地区の特性に応じて、自由な内容で防災計画を作成することが可能になっています。計画を作成するに当たっては、地区における過去の災害事例を踏まえ、想定される災害について検討を行い、実際に活動を行う活動主体の目的やレベルにあわせて、地区の特性に応じた項目を計画に盛り込むことが重要です。

■ 活動主体はどう決めるか？

- 法律上は地区居住者となっているが、明確な規定はない。活動主体はすぐに決めるには無理がある。
- 既存組織(自主防災組織、町内会、自治会、商店街組合、小学校区、マンション管理組合等)を活用する

■ 地区の範囲はどう決めるのか？

- 地区の範囲を設定する基準は無い
地域事情に応じて自由に決める
ことが可能
- 活動主体を決定した後、
そのグループ内で話し合い決める

■ まず、どうすれば良いのか？

- 防災について関心を高める。防災について学習する機会をつくる。
- 計画に沿った訓練を実施する。
実行不可能な計画は無意味である
- 何回も見直し、「地区防災計画」を作りこむ

■ 活動費用はどうすればいいか？

- 原則、地区居住者等が負担し合う
- 行政の一部において、補助金等の助成制度を設けているところもある
- 行政に相談する

誰もができる

地区防災計画

基本パターンと
参考例紹介

中之郷町地区防災計画

事例

愛知県岡崎市地区防災計画より



平成 27 年度版

人と人のつながりの強さ

～一人は皆のために、皆は一人のために～

中之郷町の地区防災計画の取組

町三役をはじめ、PTA 役員や老人会の代表など町内の各組織のリーダーでメンバーを構成し地区防災計画策定に取り組みました。

第一回地区防災計画検討会

- ・防災危機管理課職員による防災基礎講座
- ・クロスロードゲーム
- ・町の防災上の課題について意見交換



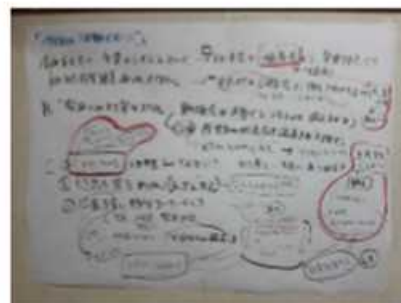
第二回地区防災計画検討会

- ・避難所運営ゲーム (HUG)
- ・復旧・復興時の活動について検討



第三回地区防災計画検討会

- ・防災訓練について検討
- ・防災の普及啓発について検討
- ・まとめと今後の活動イメージと検討



■協力：あいち防災リーダー会西三河ブロック、災害ボランティアおかざき、NPO 法人岡崎まち育てセンター・りた

■ 地区防災計画

1. 対象地区の範囲（地図で示す）
2. 基本的な考え方を示す
（基本方針、活動目標、長期的活動計画）
3. 地区の特性を知る
（自然特性、社会特性、過去の災害）
4. 防災活動の内容
（防災活動の体制、各家庭での備え）
5. 発災時の対応

①

中之郷町防災ガイドマップ

避難はどこへ? 予知情報→警戒区域や危険又は災害の発生時

近隣避難場所 組で定めた場所へ

表示	避難	近隣避難場所
	上野町	中之郷神社
	五等区画	伊勢の紅葉館・公民館
	西 側	屋外学校広場
	丸 山	大聖寺・貸付広場
	地 広	中井記念館
	地 広	OVA広場広野球場

各アパートにお住まいの方は、それぞれの避難場所が避難所となります。

一時避難場所 大づ長西郷小学校へ

集合が速く、大勢に、一時的に避難する場所。

表示	点 検	表示	点 検
	避難所指定本部		公園緑地
	避難所指定		避難所指定
	避難所指定避難所		大聖寺
	避難所指定		公園緑地指定
	伊勢110館		コンビニエンスストア

電話番号	電話番号
消防本部	03-9443
消防団	43-4119
消防団	66-0110 (118)
警察本部	66-0110 (110)
大づ長西郷小学校	71-8871
大づ長西郷中学校	64-8431
長寿館管理センター(高齢者福祉)	81-1133
小松クニエツ	64-8801
伊勢クニエツ	66-2727
伊勢銀行	64-8888
中之郷町福祉センター(福祉の窓口)	81-8870
伊勢町水産局(魚介・エビの産)	63-1410
NTT(電話の窓口)	66-8811
中之郷公民館(防災本部)	66-8787

揺れおそれ 強いなし 地震への備え

揺れが起きたら

1. 机の下に身をかくす! →机の下に隠れ、足元を固く!
2. 落ちてくるものに注意! →机の上や棚の上のものは、落ちてくるおそれがあります。
3. 落下物から逃げる! →机の上や棚の上のものは、落ちてくるおそれがあります。
4. 歩いて避難! →エレベーターは利用しないで!
5. プロップ脚に近づくと!
6. とまどいおぼえに声をかけよう!

避難所や、一人暮らしの人に声をかけよう!

防災グッズの出し入れ (持ち出し品) (持ち出し品) (持ち出し品)

持ち出し品: 防災グッズ、食料、水、衣類、寝具、貴重品、現金、薬、携帯電話、充電器、懐電、ラジオ、地図、コンパス、火災保険の書類、保険証、運転免許証、健康保険証、年金手帳、住民票、印鑑、防災グッズ、食料、水、衣類、寝具、貴重品、現金、薬、携帯電話、充電器、懐電、ラジオ、地図、コンパス、火災保険の書類、保険証、運転免許証、健康保険証、年金手帳、住民票、印鑑

目に付く場所に貼ってご利用下さい。

平成21年3月作成 中之郷町内命

②

テーマ：「災害に強い町を目指して・・・」



② 基本的な考え方（例）

○基本方針

- わが町の強みである「人と人のつながりの強さ」を災害時にも活用します。
- 若い人からお年寄りまでの皆が、一人は皆のために、皆は一人のために活動します。
- 住民の一人でも多くの生命と財産を守ります。

○活動目標

- 地域が中心となって日頃から助け合える協力し合える安全・安心な地域づくりに努めるとともに、地区防災力を高め、自助、共助、公助の力をあわせて、災害時の死者ゼロおよび火災ゼロを目指します。

○長期的な活動計画

- 災害時に必要な給水および初期消火のための井戸を確保し町内独自の避難所や防災倉庫なども整備することで、ハード面を強化するとともに、子どもから年配者まで多世代にわたる連携体制をつくり防災への取組みを継承することで災害に強いまちづくりを推進します。
- 災害に強いまちにするためにも、定期的な町内の防災訓練や屋敷別の防災研修を通じて意識を高め、多世代において認識と情報を共有し、高齢者や子どもたちが安心して暮らせるまちづくりを推進します。



③ 地区の特性を知る（例）

○自然特性

①〇〇県による災害リスク情報

- 想定震度・・・震度6強
- 液状化の危険性・・・計算対象外エリア
- 土砂災害の危険性・・・急傾斜地崩壊危険箇所等の指定がなく、土砂災害の危険性は低い。

②地震災害危険度判定結果

- 建物倒壊危険度（建物全壊率）・・・危険度〇〇
- 延焼危険度・・・危険度〇〇（〇〇件棟未満）
- 道路閉塞危険度・・・危険度〇〇

③総合判定結果

- 避難・消防活動困難危険度・・・〇〇
- 延焼危険度・・・低い

③ 地区の特性を知る（例）

○社会特性

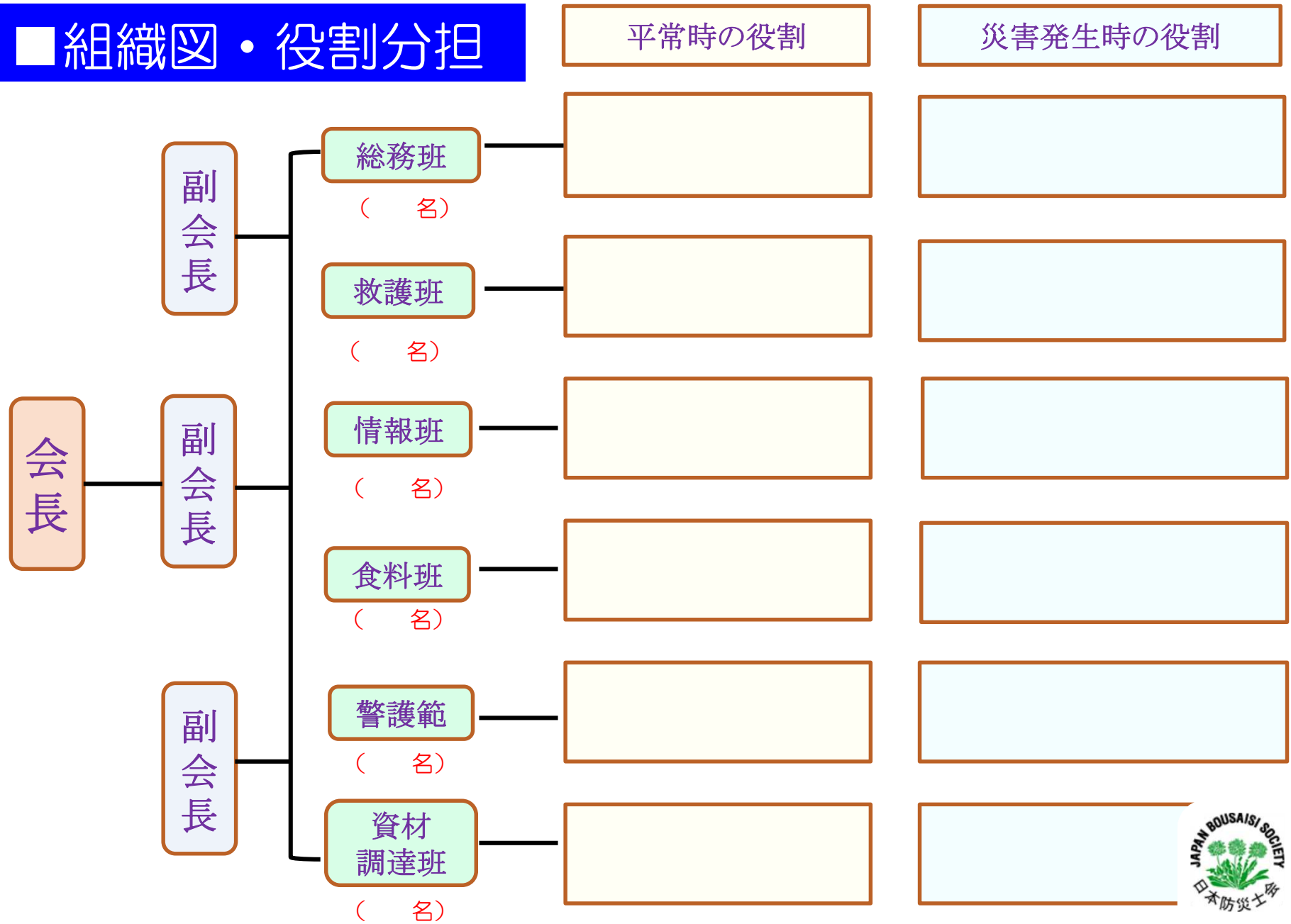
- ○○町は、盆踊りやお祭り、年越しの活動などで、人と人のつながりが豊かであり、こうしたつながりは、災害時の対応にも大きな力を発揮することが期待できます。
- 町民の15%が65歳以上である反面、○○会を中心とした若い世代の活動が活発であり、その他の地域団体間のつながりもあります。
- ○○川流域に位置しているため液状化現象が懸念され、新居が多い一方で昔ながらの家屋も多いため家屋の倒壊などが起こる可能性があります
- 避難所である小学校までは距離があり、地域に高台や高い建物はありません。
- 町内の大半はプロパンガスを使用しており、また有線放送により連絡を発信することができます。
- 町内には重機所有者が存在するため、いざという時の重機確保は比較的容易であり、農耕地が多く水路があることから食糧の調達も比較的容易です。

④ 対応、対策、避難行動について



④ 防災活動の内容 体制（例）

■ 組織図・役割分担



④ 平常時の活動（例）

○小中学生と老人会の交流

- ・災害時の対応には、年配者のリーダーシップとともに小中学生の協力が不可欠だと考えます。災害時に連携を取っていくためには、日常的に地域の中で信頼関係を築くことが重要であり、老人会を中心に定期的に交流の場を設け小中学生との情報交換を行うとともに、子どもの防災意識啓発を進めます。

○各家庭での備え

- ・避難所生活を強いられる家庭をできるだけ減少させるために、家族内での話し合い、家具の転倒防止、家屋の点検、災害時の備蓄品を各家庭に対し積極的に呼びかけます。

○災害情報周知の体制づくり

- ・屋敷単位で災害情報を周知できるよう、日頃から屋敷単位での連絡体制づくりを行います。

○町内の避難所の周知・避難所のルールや役割分担

- ・町内の避難所運営や避難生活でのトラブルを最小限に収めるために、ルールや役割分担について事前に町内で協議し策定します。

○自宅避難者名簿

- ・発災後の自宅避難者を把握するため、情報班を中心に自宅避難者用の名簿登録場所や名簿管理の方法を検討し決定します。



⑤ 発災時の対応（例）

○初期対応

- 住民それぞれが、自分の身を自分で守ることが最も大事です。
- 災害情報の周知について、三役を中心に評議委員が有線放送を通じて町内放送することとします。
- 行政から会長にあてて情報が来た場合、会長から副会長（3名）、評議委員に連絡をします。そこからさらに屋敷単位で関係者への連絡。

○近隣対比場所・一時避難場所

- 近隣待避場所は、A：〇〇神社／B：〇〇駐車場／C：屋外ひろば／
- 町災害防ぎょ隊本部を、〇〇〇公民館に設置します。
- 一時避難場所は、〇〇〇小学校です。

○防災活動の担い手

- 〇〇〇〇〇・・・・

○町内の避難所の周知・避難所のルールや役割分担

- 〇〇〇〇〇・・・・



【戸崎六区 地区防災計画の取り組み】

参加者：約25名

町三役、評議員、消防団、婦人自主防災クラブ、交通指導員、民生委員、老人クラブ、子ども会 など

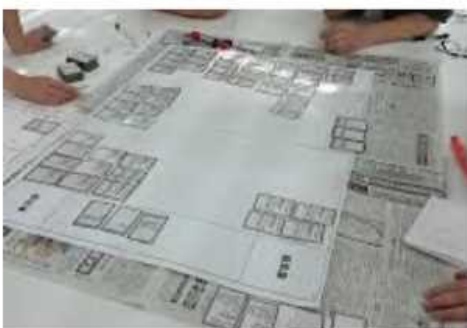
● 第1回検討会



【目的】防災意識の普及・啓発、防災講義や防災ゲームを通じて防災の関心を高めるとともに、防災上の町の課題を共有する

【内容】
・地区防災計画とは(趣旨説明)
・戸崎六区の地区特性紹介
・クロスロードゲーム
・グループワーク
「戸崎六区の
いいところ／足りないところ
／危険なところ」
・グループ発表、課題の抽出

● 第2回検討会



【目的】発災時の連絡体制や避難所の運営についてゲームなどを通じて検討することで、一連の動きや考え方に、問題点や課題がないかを洗い出す。

【内容】
・全体意見交換(発災時の活動) 防災体制／防災活動の担い手
・HUG(避難所運営ゲーム)体験
・グループワーク
「HUGを体験してみて」
・グループ発表
・避難所運営マニュアルの紹介

● 第3回検討会



【目的】今後の地区防災について、具体的な活動計画を検討し、全体共有する。

【内容】
・地区防災計画
完成イメージの共有
・ワールドカフェ方式による
グループワーク(4班)
A.防災体制
B.防災活動
C.防災訓練
D.防災意識
・グループ発表
・まとめと今後の展開

今後の活動イメージ

① 防災訓練の実施

・次年度に町独自の避難訓練を実施し、それを通じて現在取り決められている防災体制の確認と検証を行う

② 防災力の向上

・挨拶の推奨を行い、防災に関する組合を開くなど、話し合いの場を設ける

③ 防災意識の調査

・防災に関するアンケートを行い、各戸の防災意識や防災への備えを調査する

■主催：戸崎六区 町内会

■協力：岡崎市、NPO法人岡崎まち育てセンター・りた

【若松東地区 地区防災計画の取り組み】

参加者：約30名

町三役、評議員、婦人自主防災クラブ、体育委員、子ども会 など

● 第1回検討会



【目的】防災意識の普及・啓発、防災講義や防災ゲームを通じて防災の関心を高めるとともに、防災上の町の課題を共有する

【内容】

- ・地区防災計画とは(趣旨説明)
- ・若松東の地区特性紹介
- ・クロスロードゲーム
- ・グループワーク
「若松東のいいところ／
足りないところ／危険なところ」

● 第3回検討会



【目的】HUGを通じて復旧復興段階に地域がどのような状態に成りうるのかを確認し、平常時にできることを検討し、全体共有する。

【内容】

- ・グループワーク
連絡体制の確認や防災活動の担い手など、地区防災計画検討
- ・グループワーク
HUG(避難所運営ゲーム)

● 第2回検討会



【目的】防災に関する情報の共有と地区防災に関する課題を整理し、目標と行動計画を策定する。また、防災体制の確認を行う。

【内容】

- ・防災に関する情報提供
- ・グループワーク
課題の確認、目標に向けた行動計画の検討
- ・全体ワーク
防災体制の確認など

● 第4回検討会



【目的】これまでの議論が課題の抽出のみで終わらないように今後の具体的な活動についてを検討し、全体共有する。

【内容】

- ・地区防災計画の完成イメージの共有
- ・グループワーク
ワールドカフェ方式による地区防災計画の検討
- ・全4回の検討会のまとめと今後の流れについての情報共有

今後の活動イメージ

- ① 防災活動に関するマニュアルを作成
- ② 組長の役割明確化と、災害時の行動マニュアル作成
- ③ 老人会や上地小学校おやじの会との連携検討
- ④ 2種類の住民アンケートを実施

■主催 : 若松東 町内会

■協力 : 岡崎市、NPO法人岡崎まち育てセンター・りた

【藤川西部 地区防災計画の取り組み】

参加者：約25名

町三役、評議員、消防団、婦人自主防災クラブ、交通指導員、民生委員、老人クラブ、子ども会 など

● 第1回検討会



- ・地区防災計画とは(趣旨説明)
- ・藤川西部の地区特性紹介
- ・クロスロードゲーム
- ・グループワーク
「藤川西部の
いいところ／足りないところ
／危険なところ」
- ・グループ発表、課題の抽出

● 第3回検討会



- ・地区防災計画
完成イメージの共有
- ・ワールドカフェ方式による
グループワーク(4班)
 - A. 防災体制
 - B. 防災活動(発災時)
 - C. 防災訓練
 - D. 防災活動(平常時)
- ・グループ発表
- ・まとめと今後の展開

● 第2回検討会



- ・全体意見交換(発災時の活動)
防災体制／防災活動の担い手
- ・HUG(避難所運営ゲーム)体験
- ・グループワーク
「HUGを体験してみて」
- ・グループ発表
- ・避難所運営マニュアルの紹介

今後の活動イメージ

① 防災体制の見直し

- ・町単位での防災体制から、組による小単位防災体制への検討
- ・評議員の災害時における役割検討
- ・老人会や民生委員、消防団、子ども会らとの連携検討

② 防災訓練の見直し

③ 防災マップ更新と意識啓発

- 主催 : 藤川西部 町内会
- 協力 : 内閣府、国土防災技術株式会社、
あいち防災リーダー会西三河ブロック
NPO法人岡崎まち育てセンター・りた

【西本郷町 地区防災計画の取り組み】

参加者：約25名

町三役、評議委員、防災委員、福祉委員、婦人自主防災クラブ、老人クラブなど

● 第1回検討会



【目的】防災意識の普及・啓発、防災講義や防災ゲームを通じて防災の関心を高めるとともに、防災上の町の課題を共有する

【内容】

- ・地区防災計画とは(趣旨説明)
- ・西本郷町の地区特性紹介
- ・クロスロードゲーム
- ・グループワーク
「西本郷町の
いいところ／足りないところ
／危険なところ」
- ・グループ発表、課題の抽出

● 第2回検討会



【目的】発災時の連絡体制や避難所の運営についてゲームなどを通じて検討することで、一連の動きや考え方に、問題点や課題がないかを洗い出す。

【内容】

- ・全体意見交換(発災時の活動) 防災体制／防災活動の担い手
- ・HUG(避難所運営ゲーム)体験
- ・グループワーク
「HUGを体験してみて」
- ・グループ発表
- ・避難所運営マニュアルの紹介

● 第3回検討会



【目的】今後の地区防災について、具体的な活動計画を検討し、全体共有する。

【内容】

- ・地区防災計画 完成イメージの共有
- ・ワールドカフェ方式によるグループワーク(4班)
 - A. 防災体制
 - B. 防災活動(発災時)
 - C. 防災訓練
 - D. 防災活動(平常時)
- ・グループ発表
- ・まとめと今後の展開

今後の活動イメージ

- ① 全世帯を対象に、防災に関するアンケートを実施
- ② 町の防災組織について、役員会などで検討
- ③ 防災組織(防災委員)の任期を見直し
- ④ 若者や独居高齢者を巻き込めるような仕掛けを検討
- ⑤ 組長の役割を再検討

■主催：西本郷町 町内会

■協力：岡崎市、NPO法人岡崎まち育てセンター・りた

① お住いの地区、町名、何丁目

別紙に記入

② 基本方針

別紙に記入

③ 地区の特性

別紙に記入

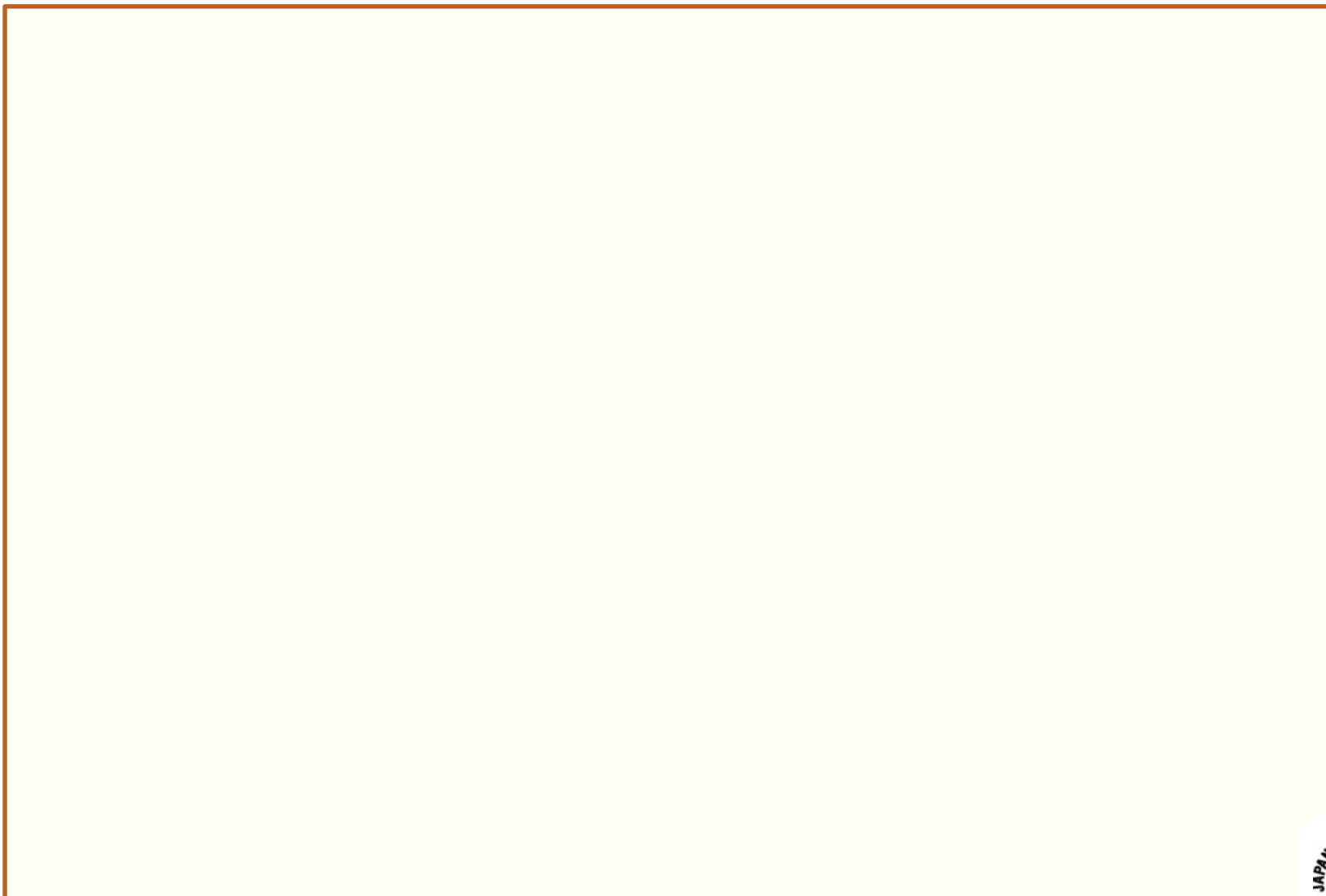
④ 防災活動の体制と備え

別紙に記入

⑤ 対応、対策、避難行動について

別紙に記入

② その地域の過去の大雨、河川の氾濫？



③ その時の被害について



地区防災計画

お住いの地域や地区での作成をお勧めします

特定非営利活動法人日本防災士会

